

区議会レポート

葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：令和8年第二回定例会報告

裏面：タウンミーティング報告他

125号

発行：かつしか立憲

【区議会控室】東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

fax 03-5654-7189

◆かわごえ誠一プロフィール ●1963年3月
川崎市生まれ ●立石在住38年 ●防災士
●子育てネットワーク・学童保育増設・PTA
・図書館友の会などに取組む ●都議秘書
を経て2013年区議選で初当選・2025年4期
目当選 ●議会所属：建設環境委員会・議
会運営委員会理事・危機管理対策特別委員
会副委員長 ●会派：かつしか立憲幹事長

令和8年区議会第二回定例会報告

■令和8年度一般会計第一次補正予算 22億8,108万円議決

◆去る6月4日（木）に令和8年葛飾区議会第二回定例会が開会し、6月22日（月）までの19日間の会期で開催されました。◆今定例会では第一次補正予算案22億8,108万円の他、条例案9件、契約案8件他が上程され、最終本会議で議決されました。

◆今回の補正予算では、区民事務所でのマイナンバーカード交付予約枠拡大、プレミアム付商品券の拡大、介護施設などの福祉施設や民間子育て支援施設などへの物価高騰緊急対策助成、小学校へのエデュケーションアシスタント、中学校への副校長補佐の拡充などが盛り込まれ、今後取り組みが進められます。
◆その他、リチウムイオン電池の回収、集合住宅の防災マニュアル案などが報告されました。

■区政トピック

■民泊等直通ダイヤル開設

◆宿泊施設周辺の良好な住環境確保をはかるため、葛飾区民泊・旅館業制度直通ダイヤルを開設

03-6662-6570（平日8:30~17:00）

◆詳細は区公式ホームページで周知

■ヤングケアラー相談専用電話開設

◆6月1日より「子ども総合センター」内にヤングケアラー相談専用電話を設置

◆対象：区内在住18才未満の子ども

03-3602-1360（月~土8:30~17:00）

■住宅用消火器購入補助

◆首都直下地震で想定されている火災被害を軽減させるため、住宅への消火器導入支援事業をスタート。

◎消火器・エアゾール消火器などへ助成率1/2・上限5,000円

◆詳細は広報かつしか、区公式ホームページなどで周知

令和8年区議会第一回定例会報告

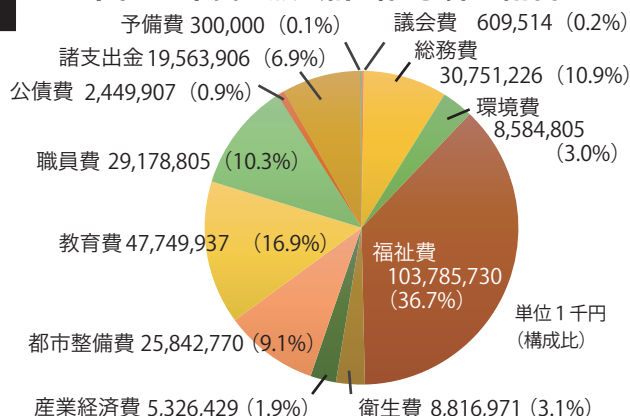
◆令和8年葛飾区議会第一回定例会が2月16日（金）から40日間の会期で開催され、3月27日（木）に閉会しました。

■令和8年度葛飾区一般会計当初予算

過去最大級 2,829億6,000万円

◆令和8年度当初予算案が上程され、一般会計では過去最大規模の前年度比9.9%増となる、2,829億6千万円が議決されました。◆歳入面では税収増の一方、歳出では全体的に物価高騰による経費が増加しており、起債〜いわゆる借金による財源確保など、見通しは決して楽観視できる状況ばかりではありません。◆学校政策や福祉などの経常経費、増加する行政需要への対応などへ対応するため、予算の執行状況を精査してまいります。

■令和8年度一般会計当初予算の割合



■かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石 8-4 7-1 8 携帯電話 090-2932-7315

e-mail: info@kawagoeseiichi.com



← Instagram かわごえ誠一日々の地域の活動など

Facebook かわごえ誠一サポーターズクラブ →



かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com



タウンミーティング・学習会報告

■タウンミーティング「3.11」あの日からもうすぐ15年～東日本大震災3.11を振り返り、これからの防災を考える～開催

◆今年は東日本大震災3.11から15年になります。◆去る2月7日（土）に「東日本大震災3.11を振り返り、これからの防災を考える」をテーマにタウンミーティングを開催しました。◆この15年間で各地で大きな災害が発生し、この葛飾区でもいつ大規模災害に見舞われるかわからない状況です。◆私たちのまちを守るため、被災地の実体験から学びたいと企画をしました。◆以下、一部要約を報告します。



タウンミーティング会場風景

■3.11 葛飾小学校での帰宅困難者受入れ体験

◆講演に先立ち、かわごえから、3.11での帰宅困難者の受け入れについて報告いたしました。◆当時PTA会長を務めていた葛飾小学校で発災直後から、先生方と児童の引き渡しとともに、その後、青砥駅から閉め出された300人近い帰宅困難者の受入れを行いました。◆帰宅困難者と一言に言っても平日午後京成線から放り出された方々の中には、ご高齢のご夫婦や、ベビーカーを押した若いご夫婦、地方から就活に出てきた学生、部活に向かう中学生のグループ、下校途中の女子学生、聴覚障害の方、外国人旅行客の一団など多様な方がいました。◆避難者の受入れは一晩だけでしたが、多様な人が避難すること、災害時の支え合いが大切であることを体験しました。◆今後も災害時の学校と地域の連携体制構築に向けて発信していきたいと思ひます。

■大津波から子どもの命を守った学校の話◆巨大地震・大津波警報・避難所・安否確認に奔走した学校現場のリアル

《柏崎正明さん 元大船渡小学校校長・元大船渡市教育委員》

◆東日本大震災発災時に岩手県の大船渡小学校の校長を務めていた柏崎正明さんをお招きし、当時の緊迫した状況を伺いました。◆発災直後に、児童・教職員が校庭に避難し、保護者が引き取りに学校に到着しはじめたところへ大津波警報が届いたとのこと。◆通常の避難経路である校門からでは避難が間に合わない判断し、保護者や地域の方々にも声をかけ、児童たちを裏山に向けてフェンスを乗り越えて避難し、その直後に津波が押し寄せてきたとのことでした。◆その後、避難所で子どもの引き渡しを続けるとともに、発災前に帰宅していた子どもたちの安否確認のため地域の避難所などを訪れ、3日目に全員の安全が確認取れた時に教員が全員で喜び合った様子などが語られました。◆また、3.11の後、大船渡小学校で津波により学用品などが流された状況を聞いた白鳥小学校のPTAがランドセルの寄附を呼びかけ、関係者が直接大船渡へ送り届けました。◆それをきっかけに、大船渡小学校と白鳥小学校との交流が続けられましたが、被災地として遠方からの支援がなによりも励みになったとのこと。◆3.11から15年になり社会でも記憶が薄れ、当時を知らない世代も増えてきたが、忘れさせないために、語り続けていく必要がある、との思いを話されていたのが強く印象に残っています。

◆緊急時の臨機応変の判断の重要性と、子どもたちの安全を確保するための責任感について学びが大きい講演でした。

■子どもたちの命を守るために

◆今回の講演から学校現場で子どもたちの命を守るために、学校に関わる関係者の意識向上が重要であり、教育委員会としての危機管理体制の構築が急務だと感じました。◆被災地からの発信を活かし、区内の環境整備を進めていきたいと思ひます。

タウンミーティング

「3.11」あの日からもうすぐ15年

日本大震災をふりかえり、これからの防災を考える

タウンミーティングの一場面



■避難所開設訓練・防災訓練開催

◆1月24日（土）に葛飾小学校において避難所開設訓練が行われました。◆3.11以降体制を整備し、定期的に行っている訓練の一環で、今回は避難所開設の初動体制の確認を行いました。◆また、今回は近隣保育園・学童保育クラブに加えて手話通訳ボランティアの関係者も参加し、災害時の連携についても考える機会となりました。



避難所訓練の風景



子育て中の外国人との訓練

地域共生のための防災訓練

◆災害は国籍に関係なく襲ってきます。能登半島地震でも外国人が孤立したことが報道されましたが、



外国人コミュニティとの訓練

今年2月に災害知識の少ない外国ルーツの方へ地域団体と消防署が連携し、それぞれ防災訓練を実施しました。

【雑感】◆3月以来の区議会レポートとなりました。◆個人的なことですが、昨年の選挙後から実家の父親が入院を繰り返し、川崎市の病院へ通う日々を送り、先般、看取りました。◆そのような中で駅頭活動や地域の活動の一部を制限せざるを得ない状況であったことご理解いただければと思います。◆これまでも仕事と介護を抱えている方々への支援の課題について取組んでまいりましたが、今回、当事者として経験をさせていただくことになりました。◆「もっと大変な方がいる」と言われるかもしれませんが、日々の緊張感や心理的な状況を我がこととして体験

することになりました。◆様々なところで、「実は私も」と声をかけていただくことが増え、特に話す機会がないため共有する機会もないことを感じました。◆この間、区内で開催されていたケアラズカフェに参加し、話を伺う機会がありました。◆そこでは「自分一人ではないんだと感じられた」「話ができ気持ちが軽くなった」「先の見通しが立られてそう」などの言葉があり、当事者同士の情報共有の場がいかに大切かも感じました。◆今回の経験では改めてケアをする側を支える意味を考える機会となり、今後ケアラーへの支援体制について考えていきたいと思ひます。